

事務事業名		ウォークラリー大会開催支援事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	4 豊かな心を育む教育・文化づくり					担当組織	担当部	観光スポーツ部	担当課	スポーツ立市推進課	
	政策	3 スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり					担当係	市民体育係		担当課長名	関口 吉丸	
	施策	1 生涯スポーツ・競技スポーツの振興とスポーツ環境の整備					新規事業・継続事業		継続事業			
	基本事業	1 生涯スポーツの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業			
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名						
	15038	一般	10	5	1	ウォークラリー大会開催支援事業						
	事業区分	市単独事業・国県補助事業		市単独事業				任意的事業・義務的事業		任意的事業		
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H 4年度～ 年度		根拠法令 条例等	実施方法		直営				
						事業分類		支援事業				
						リーディングプロジェクト		該当				
						市長マニフェスト		3-14				

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)								
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)						
・佐野ウォークラリー大会実行委員会に対する交付金交付事務 ・市は主催、実行委員会事務局として、共催のレクリエーション協会と連携し、大会準備、開催、運営に関する調整等の全般に携わる。 (大会の内容) ・距離の違う3コースを設定し、6人以下のチームで参加するレクリエーション大会。 ・コマ図(コース図)に従って進み、途中のチェックポイントの課題を解決しながら、設定された時間で、ゴールを目指す。 ・課題点、時間点の合計得点により順位を決定する。 ・地域振興基金運用益充当事業		主な活動: 交付金支出手続き(5月)、会議開催(3~6月)、大会の準備(5~6月)。 主な会議: 打合せ会(3~6月)、実行委員会(5月) 開催日: 平成26年6月8日(日) 会場地: 佐野小学校周辺						
		活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
		会議開催数	回	3	3	3	3	3
		コース数	コース	3	3	3	3	3
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)								
① 市民		対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
②(交付対象団体) 佐野ウォークラリー大会実行委員会。		人口	人	123,182	122,582	121,522		
目的								
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)								
① 健康づくりや仲間づくりを目的に、年齢・性別・身体的ハンディキャップを問わず行えるウォークラリーの普及		成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
② チェックポイントで行われるニュースポーツの普及		参加者数	人	177	166	220	220	220
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)								
スポーツ・レクリエーションに親しんでもらう		上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
		週に1回以上スポーツ・レクリエーションに親しんでいる市民の割合	%	40.7	40.6	40.0	42.0	45.0

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)		
		千円							
投入量	国庫支出金	千円							
	県支出金	千円							
	地方債	千円							
	その他	千円	70	70					
	一般財源	千円			70	70	70		
	事業費計(A)	千円	70	70	70	70	70		
事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
		交付金	70	交付金	70	交付金	70	交付金	70
人件	正規職員従事人数	人	5	5	5	5	5		
のべ業務時間	時間		130	150	150	150	150		
人件費計(B)	千円		506	591	591	591	591		
トータルコスト(A)+(B)	千円		576	661	661	661	661		

事務事業名	ウォークラリー大会開催支援事業	担当部	観光スポーツ部	担当課	スポーツ立市推進課	担当係	市民体育係
-------	-----------------	-----	---------	-----	-----------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	1984年に日本レクリエーション協会の呼びかけで第1回全国一斉ウォークラリー大会が行われた。佐野市では第9回から開催している。全国一斉は第20回で終了し、現在は佐野市大会として開催している。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	全国一斉がなくなり、開催会場が減少している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	コース参加者からは楽しかったという意見が多い。開催地が市内各所で開催されているが、大会運営としては、会場となる地域住民の協力が必要との意見が挙げられている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 年齢・性別・身体的ハンディキャップを問わず誰にでもできるウォークラリーを普及させることで、歩くことのきっかけ作りや健康増進にも繋がり、また仲間づくりにもなるので生涯スポーツの政策体系に結びつく。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
有効性 評価	市が行わなければならない	理由・改善案 大会運営に関しては、レクリエーション協会を中心に実行委員会を組織し開催している。民間主導にて開催するイベントとして実行委員会に対して交付金の支出は必要である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 市民に対し生涯スポーツの推進として、手軽にできるウォーキングを取り入れることは普及に繋がるので妥当である。
効率性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案 ウォークラリーの楽しさを知ってもらうことで、より多くの参加者が見込める。効果的な周知方法を検討する必要がある。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
公平性 評価	類似事務事業はあるが、統合・連携できない	理由・改善案 類似事務事業名 市民歩け歩け大会開催事業 歩け歩け大会とウォークラリー大会はウォーキングという点では類似しているが、コマ図に従いコース上の関門でゲームをクリアしながら設定された時間にゴールを目指すもので趣旨や内容が大きく異なる。したがって、統廃合・連携はできない。
	*類似事務事業があれば、名称を記入	
	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
総合 評価	削減の余地はない	理由・改善案 参加料を事業費に充てるとともに、多くのボランティアのスタッフにより運営している事業なので削減の余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 小学生以上 1名につき300円(未就学児は無料)は妥当である。
⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)		
生涯スポーツの推進、運動をするきっかけ作りとして事業の終了はできない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) ・実行委員会の担い手であるレクリエーション協会の各団体の協力者が高齢化しており、若い世代の担い手を増やすように働きかける必要がある。 ・老若男女問わず、友達同士、親子での参加を増やすべく、幅広い世代に本イベントを宣伝する必要がある。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×	・若い世代の参加者、ボランティア等の担い手を増やすために、SNS等の新しいコミュニケーションツールを利用して宣伝を強化する等していきたい。
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上		○																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			